（別紙4）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470400132		
法人名	有限会社花しょうぶ苑		
事業所名	グループホーム花しょうぶ苑		
所在地	三重県亀山市本町1丁目2番12号		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町提出日	令和4年9月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470400132-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和　4　年　8　月　17　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員は地域と共に「和気あいあい」をモットーに利用者と関わっている。家庭的な雰囲気と地域とのかかわりを大切にし、笑顔とチームワークで安心して暮らせるようケアに取り組んでいる。また同じ建物内にデイサービスがあるためお互い職員も協力しあって支援している。近くの保育園、小学校の生徒との交流、中学生高校生の介護実習も開設以来続けている。家族や地域の方もいつでも訪問し何でも話しやすい雰囲気を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所の玄関を入ると左右にデイサービスとグループホーム其々のフロアーに分かれて運営されている。事業所周辺の地域は昔ながらの街並みや商店も有り、地域と共に暮らす家庭的な雰囲気が流れている。「元気にしてる？」とガラス越しにご近所の方が訪問に来られたり、家族や友人からは野菜が届いたり、気軽に立ち寄り易い事業所の様子が伺われる。開設より19周年を迎えるが、コロナ禍で数々の制限や自粛がある中でも、小学校の園芸クラブの生徒達から花の苗が届いたり、幼稚園児から手紙が届き、利用者は返事を出す事を楽しみに交流を持っている。職員の定着率も高く、会議等では本音で意見が述べられ、職員の目指すところが同じ方向を向き、仕事への意欲が伺われ関係も良好である。利用者一人ひとりと丁寧に向き合い、理念の「和気あいあい」に情熱を持って地域と共に暮らしを支えている事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		○	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「和気あいあい」を見える場所に提示し共有している。管理者、職員は家庭的な雰囲気と地域のかかわりを大切にしながら生活できるよう日々のケアに取り組んでいる。	理念「和気あいあい」がリビングに掲示され、事業所が目指す日々の支援に活かされている。家庭的で和やかな雰囲気が感じられる様に、理念に立ち返り、職員は利用者の暮らしを支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、実施できていないが、地域の保育園や小学校から心のこもったお手紙などをいただいている。	自治会の配布物が届けられ、挨拶や世間話などの交流がある。地域の小学校園芸クラブから花の苗が届いたり、保育園児から届いた手紙に利用者が返事を出したり、コロナ禍に於いても地域との繋がりが続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の中学生の福祉体験、亀山高校生の介護実習を受けていれていたが、コロナ禍のため実施できてない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、実施できていない。	コロナ禍で会議開催が中止の為、年に6回事業所の内部報告書を作成し、行政に発信している。事業所として今後のより良いサービス向上と取り組みに向けて、運営推進会議が活かされるように検討している。	運営推進会議は地域より運営の見守り、助言や支援が得られる大切な場である。議事録を地域の会議参加メンバー全員に発信して、意見や要望等の紙面上交流の場として充実を図られる事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新手続きや運営推進会議録の提出など包括支援センター、広域連合に出向いている。市主催の研修には、コロナ禍のためZoomにて参加している。	介護更新や提出物は、随時、管理者とケアマネジャーが行政や包括窓口に出向いている。行政のZoom研修案内には、月1回職員が交替で参加し、情報を得ながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に拘束しないケアを話し合い、外部の研修会にも参加し、身体拘束、言葉、精神的、生理的な抑制をかけないケアに取り組んでいる。	現在身体拘束に関する事例は無いが、年に4回以上の「身体拘束廃止委員会」や研修会を開催し、日常支援の中で利用者の人権を守る為に取り組んでいる。特にスピーチロックについては、管理者が職員への気付きを促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	グループ会議で、身体的にはもちろんのこと特に言葉の暴力に関しては、職員同士で話し合い防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が住み慣れた場所で安心して暮らせるようにとの思いで、一人ひとりの状態に合わせたケアをすることが大切だと話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に本人や家族と話し合う機会を持ち、見学時には安心して入居できるよう十分説明し契約や解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時などに積極的に意見、要望等のできる場面を多くとっている。また利用者様の思いなどできるだけ多く聞き入れるよう日々の日常会話などを大切にしている。	コロナ禍で面会が出来ない中、「誕生日や法事等には自宅へ帰らせて欲しい」と家族の要望があり、施設で相談の上実現された。家族のどんな意見や要望にも、配慮や改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務のなかで、自由に意見や要望、アイデアなど聞き入れケアの質の向上などに活かしている。	年に1～2回の人事考課で職員の意見や要望を聞く機会を持ち、働く意欲と質の向上に繋げている。必要備品購入や修理まで、現場職員の声や情報の大切さを認識し、皆が満足出来るような対応に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与に過去半年間の勤務態度や実績を反映させている。また自己評価表を記入してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は、年1回は必ず参加するよう義務付けており、研修後はレポート提出、グループ会議で報告、フィールドバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所のキァリアアップZoom研修会に参加し、グループワークにて情報交換を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	デイサービス利用からグループホームに入居される方が多く、職員とも顔なじみで思いを伝えてもらいやすい雰囲気作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い・要望、困っていることを聞き信頼関係を築き、入居後もできるだけ家族とのコミュニケーションをとり本人や家族が安心できるような関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人や家族の思いを聞き取り、安心した生活を送ることができるよう職員同士話し合い柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から職員はみんな家族という思いで接しており、いい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため面会に制限はあるが、家族の面会時には、利用者の日頃の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため実施できていないが、面会が出来る状況であれば苑内で面会したりしている。	利用者と顔馴染みのご近所の方が「元気にしてる？」とガラス越しで会いにみえている。事業所周辺は、昔ながらの街並みが保たれた良い環境で、この地域周辺からの入居の利用者には、馴染みの住処となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特性や能力を活かし日常のなかで役割分担ができている。利用者同士が助け合ったりしているのを見守り、ときには間に入ることもある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了は入院、他施設入所ではないためその後の関係は終わることが多い。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日常生活の会話や家族様との会話により、利用者本位のサービスの提供ができるように努めている。	日常の関わりの中で利用者の思いを掴み取り、職員は自然に実行へと支援している。思いを表現出来ない利用者がどんな思いでいるのかを、職員は表情を見て読み取り、申し送りノートに記述、職員間で有効的な情報の共有を行なっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族などから今までの生活の様子など聞き無理に変えることなく、一人ひとりに合わせたサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者の生活リズムを把握し、個々の状態に応じた過ごし方をしてもらっている。日によって状態が変化することもあるので、注意深く見守っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のグループ会議で日々の情報を話し合い、また本人、家族、職員の意見を取り入れ、現状に即したその人らしく生活できるよう介護計画を作成している。	介護計画書はケアマネジャーと管理者が、家族の意見や協力医の助言、職員の意見も取り入れて作成している。ケアマネジャーは現場に入り、利用者の生活課題を上手く引き出し、状態変化にも柔軟な対応を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送り、各種チェック表に日々の様子や本人の言葉などを記録し職員間で情報共有を行い話し合い、計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて受診の付き添いや買い物などその都度対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は地域での催しに出かけ、出かけた先は地域の交流の場となり、地域との関わりを支援していたが、現在は実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診がある。また緊急時も24時間指示が受けられるようになっている。	入居時に希望を聴き取り、利用者全員が協力医の月2回訪問診療を受けている。他科受診には家族や職員同行支援により、連携を図っている。緊急時を含めて24時間対応で、適切な医療支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師、また協力医からアドバイスをうけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が家族、病院関係者と治療経過や退院後の事を話し合い、できるだけ早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	リビングウィルを入居時に記入して頂き説明し、重症化した場合、状況の変化に応じ家族の希望にそうよう、主治医のアドバイスを参考にして終末期にむけた方針をきめチームで支援に取り組んでいる。	終末期、最期の旅立ちを「花しょうぶ苑」でとの本人と家族の希望に寄り添い、現在も看取り支援を実施している。協力医や職員も自宅に居る想いの中、重度化や終末期をチームで支えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設のデイサービスの看護師、また協力医からアドバイスをうけている。また応急手当の研修を受けた職員から教わり、急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、6月と10月にデイサービスとの合同避難訓練を利用者と一緒に行っている。6月には消防署より来て頂き消火訓練を実施した。緊急の対応策も常々話しあっている。	併設デイサービスとの合同訓練を年2回実施している。地震と火災想定訓練の中でも、特に初期行動、職員への緊急時連絡、近隣職員招集等への、現場での課題を訓練目標として取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や一人ひとりに合わせた言葉を選び笑顔で話せるよう、自尊心を傷つけないよう工夫しながら対応を心がけている。	利用者の呼称は◯◯さんと呼んでいる。職員は利用者の生活歴から、その人らしさや誇りに思える尊重した言葉掛けを心得ている。利用者がリビングに居る時に職員は、居室に用件があれば「入らせてね」と必ず声掛けて了解を得て入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話から献立や行事、製作を考えたりしている。利用者と職員がなんでも話せるような環境をつくれるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごしていただいている。希望があればできる限り対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の床屋さんに来てもらって、その人にあった髪型にしてもらったり、服装は自分でコーディネートしたり、できない方は職員が寄り添い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、好みのメニュ―また季節に応じた献立を作りなるべく利用者の希望にそえるようにしている。できる範囲でいろいろと手伝っていただいている。	職員が1ケ月交替で献立を作り、嗜好調査や季節を感じる食材を素に、利用者と職員は同じ食事で同じ食卓を囲んで楽しんでいる。誕生日には「ちらし寿司」を楽しみにされる利用者も多く、食欲を高め食事への関心が湧いて頂けるよう工夫に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や水分量など一人ひとりに応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは職員が見守り、口腔内の清潔が保たれるよう介助しケアをしている。就寝時には、洗浄液につけ預かっている。また月2で訪問歯科治療で口腔ケアをしてもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決め声かけしたり、個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。	布・リハビリパンツ・パットを利用されていても、自然の動きで自らトイレに行かれる自立者が多く、見守りや付き添い支援をしている。カテーテル挿入の方は、ベッド上での支援である。可能な限りトイレでの排泄を個別に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるよう朝の体操は毎日行っている。また通じのいい食材など工夫して提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴だが、希望や状況に応じて対応している。入浴拒否がある場合でも誘導次第で入浴してもらっている。	週3回の入浴で、希望や体調の加減等で調整している。一般浴男性、女性と身体状況によりデイサービスの特浴に対応している。長湯が大好きな方は希望に添って、疲労感の無い様に配慮している。入浴を拒む方には職員の声掛けの工夫で入浴され、湯上りにはご機嫌な表情をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前午後とその人の体調に合わせて居室にて休んでもらっている。夜間はその人に応じた薬剤を処方してもらい睡眠が摂れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明は個人ファイルに綴じ常時見られるようにしている。症状の変化や薬の変更があった場合は職員全体が周知し状態の変化など観察し報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などから、家事の手伝いや縫物などの得意分野で各自が活躍できる場をつくっている。役割を担うことで生き生きとされ意欲向上にもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に合わせ季節の花見など外出等希望に応じられるよう支援している。お誕生日には自宅に帰り家族と一緒に過ごされる方もいる。	利用者や家族の希望で自宅に帰る方もあり、コロナ禍でも家族との外出で充実と楽しみを味わって頂けている。暑い陽射しを避けた時間には、近隣散歩で気分転換をしている。また、地域の馴染みの場所へ車で出掛け、四季折々の花の季節を感じて貰っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍以前は買い物など付き添い外出していたが、現在は実施できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自分の思いを家族に伝えられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や個人の塗り絵、壁面、書道、行事の写真など季節を感じられる空間作りに努めている。	壁面には利用者と一緒に手作りされた、日替わりカレンダーや、大きな向日葵・金魚の貼り絵・利用者自筆の習字作品が掲示されている。天井高く広々としたリビングにはゆったり大きなソファーが置かれ、明るく居心地の良い共有生活空間が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーの片隅にソファーをおいて気の合った者同士くつろげる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、小物、家族との写真など自分の好みのものを飾ったりして個性を大切にしている。	居室にほうきを備えて毎朝の掃除を欠かさず綺麗に片付けられる方や、大きな時計が掛けられた周囲には行事や家族写真が飾られていたり、其々にその人らしい生活感溢れる過ごしやすい部屋の設えである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室の入り口には表札をかけており、居室、フロアーと心地よく過ごせるよう工夫している。		